

## 平成22年12月 マンスリー レポート

集計企業数 **60** 社

### ① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	54,012,640 万円	100.0%	101.7% (102.6%)	51,376,520 万円	98.7% (99.8%)
食 料 品	43,857,503 万円	81.2% (81.7%)	102.6% (103.2%)	41,605,801 万円	99.0% (100.0%)
農 産	6,042,574 万円	11.2% (11.8%)	108.7% (112.5%)	5,675,386 万円	105.0% (109.0%)
水 産	4,972,680 万円	9.2% (8.3%)	99.1% (99.1%)	4,715,402 万円	95.7% (96.0%)
畜 産	5,260,442 万円	9.7% (9.9%)	101.8% (101.3%)	5,002,196 万円	98.4% (98.4%)
惣 菜	4,487,901 万円	8.3% (8.3%)	103.7% (104.6%)	4,265,812 万円	99.9% (101.1%)
日配食品	9,450,853 万円	17.5% (18.5%)	102.1% (102.1%)	8,963,954 万円	98.4% (98.7%)
加工食品	13,643,053 万円	25.3% (24.9%)	101.7% (101.8%)	12,983,051 万円	98.1% (98.6%)
生活関連	4,351,588 万円	8.0% (7.8%)	100.7% (102.8%)	4,182,416 万円	98.4% (100.6%)
衣 料 品	2,204,637 万円	4.1% (4.5%)	91.8% (96.9%)	2,138,953 万円	91.6% (99.6%)
そ の 他	3,598,912 万円	6.7% (6.0%)	99.2% (98.8%)	3,449,350 万円	99.6% (97.2%)

### ② 数 値

全店総売上高	54,012,640 万円	店 舗 数	4,073 店舗
総売場面積	7,761,316.0 m <sup>2</sup>	総従業員数	223,731 人

店舗平均月商	13,261.1 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,023 円 (98.9%)
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	7.0 万円 (5.8 万円)	平均店舗面積	1,905.6 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	23.0 万円 (19.2 万円)	パート比率(前月)	76.9% (76.6%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 《 全体概況 》

- ・引き続き節約志向からクリスマス商戦までは大変苦戦した。その反動か、曜日合わせもよくクリスマス・年末商戦については、全体としては好調だった
- ・上旬から中旬にかけて天候も温暖で、野菜の相場高は引き続き継続した。寒波が到来したクリスマス以降については、鍋物商材、ホットメニューを中心に動向が良かった
- ・前年度は、大変苦戦した年末であった。本年度も9月、10月、11月の売上の状況からすると少し厳しい月となった

## 《 商品動向 》

### ○ 農産

- ・月間を通じて野菜・果物全般的に相場高で推移した為に主力商品のみかん、リンゴ類は好調だった
- ・月後半に気温が下がったことで、白菜、きのこ類など鍋物商材は前年を上回る動きであった
- ・みかんは裏年の関係で相場高から好調だった。バナナを中心とした輸入果物は苦戦した
- ・野菜の主力商品のじゃがいも、たまねぎ、にんじん等の土物は好調だったが、かぼちゃ、さつま芋、里芋は苦戦した

### ○ 水産

- ・鍋物シーズンをむかえ、鍋物商材は前年をクリアするが、ノロウィルスの影響から生カキは大幅にダウンした
- ・クリスマス以降の天候不順により、シケ続きで年末の生ものの入荷が例年より少なく鮮魚全体の売上は大変厳しい状況だった
- ・月間を通じて塩干物の動きがよく、特に年末商材の塩カズノコは相場安から販売好調だった

### ○ 畜産

- ・中旬までの気温が高かった影響で、しゃぶしゃぶ、すき焼き用等の鍋物商材は、苦戦した。気温が下がり始めた年末はほぼ前年並みの実績となった
- ・クリスマス商材のローストビーフ、ステーキ、和牛肩ロース等は好調だった

## ○ 惣菜

- ・クリスマスのローストレッグ、年末の年越し用エビ天、かき揚げは好調だった
- ・低価格弁当は相変わらず好調であるが、低価格おにぎりは不振だった
- ・お客様が自分で温めて食べる「レンジアップ」商品は大きく伸長したが、コロッケ、メンチ等のベーシック商品は前年並みだった

## ○ 日配・加工食品

- ・11月に引き続き鍋物商材、おでん商材が好調な動き、テレビ放映により「酒粕」・「板粕」が好調でフェイスをしっかりと確保し売込んだ
- ・野菜高騰の影響により、漬物類が好調、冷凍野菜も引き続き好調だった
- ・鏡餅は、年々小さいサイズにシフトしている。正月準備用品（豆類、しいたけ、餅等）は数量が伸びず前年割れだった

## ○ クリスマス商戦

- ・家庭でのパーティーメニューとして寿司種セット、オードブル、ローストビーフやサラダなど、家庭でひと手間かける商品の動きがよかった
- ・惣菜のローストレッグは前年並み、フライドチキン類が伸長し、チキン唐揚げは前年割れの状況だった
- ・予約ケーキは前年並み、ショートケーキ、アイスクリーム、カットフルーツが好調だった
- ・シャンメリー、クリスマスブーツ等は年々減少傾向であるが、シャンパン、キャラクター商品は好調だった

## ○ 年末商戦

- ・おせち商材のかまぼこ、伊達巻は販売設定数量をほぼクリア、セット物が大きく伸びたが、栗きんとん、昆布巻等の単品おせちが低迷した
- ・鮮魚の実際商品（エビ、カニ、まぐろ、数の子）の動きが良く、畜産も牛肉（すき焼き、しゃぶしゃぶ用肉）で全体数字を押し上げた
- ・年越しそば用のエビ天、かき揚げは好調、年越しそばは前年割れだった
- ・昨年に比べて、実際商品が全体として動きが良く、チャンスロスになる商品もあった
- ・年末は天候に恵まれ、紙クリーナー等、特に簡単に掃除が出来る清掃用品が好調だった

以上